東京都立多摩桜の丘学園学校だより

さくらちゃんNews

令和６年 12 月 16 日発行第 10 号
多摩市聖ヶ丘１－17－１
電　話　042－374－8111
発行者　校　長　西田良児

「多摩桜祭を終えて」

校長　西田良児

２学期最大のイベントである、多摩桜祭を１１月２２日、２３日に実施しました。昨年まで実施していた入場制限等もすべて解除、多くの保護者の方や地域の方にお越しいただき、大変盛況な多摩桜祭となりました。ありがとうございました。児童・生徒代表で決定したスローガン「笑顔でつながる多摩桜祭」のもと、日頃の子供たちの学習の様子・成果を劇や動画、販売活動や展示などを通してご覧いただくことができました。来校された大勢のお客さんの前で伸び伸びと表現する姿が印象的だった子供たち、緊張感のある中でも精一杯自分の力を発揮しようとしている子供たちなど文化祭で活躍する様々な姿が見られました。

私は、子供たちが人前で表現したり、発表したりする経験を通して、「褒められた経験、認められた経験」が積み上がった多摩桜祭だったと考えています。

新しいことに取り組んだり、物ごとに挑戦したりする際には、まずは「やってみたい」という自分自身の興味・関心に基づく動機が大切です。多摩桜祭の取組には「やってみたい」ことがたくさんありました。さらに、自分たちがやってきたことが「認められた」、お客さんに「喜んでもらえる」という動機も子供たちの成長には大切な要素だと考えます。「素敵だったねぇ」「かっこよかったよ」「〇〇してくれてうれしかったよ」…。そんな励ましに応えようとする動機は、この先、様々なことにチャレンジしようとする子供たちをしっかりと支えていきます。

一方、大人の褒め方にもこつがあります。子供たちが本人なりに努力したこと、頑張ったことを褒めることで子供たちの自己肯定感が向上し、新しい課題に積極的にチャレンジする様子が見られるという分析もあるとのことです。

多摩桜祭で多くのお客さんに拍手や励ましの言葉をかけられた子供たちの表情には「頑張った！」「褒められてうれしい！」「人の役に立った！」という気持ちにあふれていました。そして、そうしたたち成感が次への新たなステップや挑戦につながるものと期待しています。

「褒めて、認める」機会は、毎日の生活にもたくさんあります。これからも、結果がうまくいかない時でも、子供たちが頑張ったその姿に我々教員がしっかり応えていきたいと感じた多摩桜祭でした。

今学期も、後わずかになりました。インフルエンザ等感染症の流行の兆しがあります。体調には十分気を付けてお過ごしください。